

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結 (合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
①農業研究部 (計47件)						
0312	農業研究部	【イチゴの交配（人工授粉）を開始しました】 (2019. 3. 27発信) 2019年度のイチゴ品種育成試験に向けた交配を3/18から開始しました。今年は42の組合せで交配を行い、冬に早生性、果実品質等で選抜を行います。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2019.4.24
0311	農業研究部	【日本植物病理学会で世界初の事例を発表しました！】(2019. 3. 27発信) 3/18~20の間で日本植物病理学会が開催されました。当研究部からは世界初の事例となる「大分県におけるフルトラニル耐性ネギ白絹病菌の発生」について発表を行いました。今後も研究成果を発信していきます。		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2019.4.24
0309	農業研究部	【ピーマン立枯症状抑制のため、転炉スラグを投入しました】(2019. 3. 25発信) 玖珠町では夏秋ピーマンの生育初期に立枯症状が発生し課題となっています。そこで、長期間土壌pHを高く維持できる転炉スラグを施用し、立枯症状を抑制する実証試験を始めました(目標pH7.5)。	 スラグ施用中の様子 (約5t/10aを投入)	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2019.4.11
0294	農業研究部	【イチゴの研修会等を実施しています】 (2019. 2. 22発信) 当チームではイチゴに関する研修や視察対応を行っています。2月7、15日には県内の生産者が訪れ、ベリーの現在の研究状況を視察しました。今後も研究成果をいち早く紹介・普及していきます。	 研修会の様子	農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2019.3.20
0293	農業研究部	【イチゴ育種交配母本候補の果実品質調査を行いました！】(2019. 2. 22発信) 本県では、品種育成のため交配母本候補の特性評価をしており、今回は果実の糖度、酸度、果皮色の測定を行いました。今後も本県オリジナル品種「大分6号(ベリーツ)」を超えるような品種の育成に取組んでいきます。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2019.3.20
0291	農業研究部	【亜リン酸を使ったコマツナ現地試験の収穫調査を行いました】(2019. 2. 21発信) 2/14に中津市のほ場で加工用コマツナを収穫し、亜リン酸資材の施用が収量に与える影響を調査しました。今回の結果を基にコマツナにおける亜リン酸の効果的な使用方法を明らかにしていく予定です。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2019.3.20
0285	農業研究部	【スマートハウスで冬ニラに炭酸ガスを施用中】 (2019. 2. 15発信) 冬ニラはハウス内で栽培しますが、冬期(1~2月)は換気量が少ないため、光合成に必要な炭酸ガスが不足しがちとなります。そこで、ニラの収量向上を目的に、炭酸ガスの施用試験を行っています。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2019.3.15
0276	農業研究部	【双方向かん水による小ネギ栽培試験の生育調査を行いました】(2019. 1. 29発信) かん水管理は小ネギの生育に大きな影響を与える重要な栽培技術です。本試験では、双方向かん水(上+横)により、ほ場内の土壌水分が均一になるかを実証中です。写真は生育調査の様子(1月24日)。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2019.2.25
0269	農業研究部	【亜リン酸添加養液を用いた小ネギの栽培試験を開始しました】(2019. 1. 11発信) 亜リン酸は作物に吸収されやすく、生育改善効果が期待されています。葉菜類の生育向上等を目的に、亜リン酸を添加した養液で小ネギの栽培試験を12月末から開始しました。今後、レタス等でも試験を行う予定です。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2019.2.8
0263	農業研究部	【温ガス基準点大麦生育良好】 (2018. 12. 27発信) 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業では、有機物投入の有無等による土壌中の炭素や窒素貯留量の経年変化を調査しています。11/26に場内継続調査圃場(基準点)へ播種した大麦は発芽の揃いも良く生育が順調です。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2019.1.24

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0262	農業研究部	【ハウス内環境制御試験用冬ニラの収穫・調査を開始しました】 (2018. 12. 27発信) 冬期(1~2月)に生育が停滞気味となるニラの収量向上を図るため、日中の換気方法や炭酸ガス施用などの試験を実施しています。今回、7月に定植したニラ品種「タフボーイ」の収穫・調査を開始しました。		農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2019.1.24
0261	農業研究部	【ベリーの収穫調査を実施中です！】 (2018. 12. 27発信) 本県オリジナルイチゴ「ベリー」の収穫調査を12/3から本格的に開始しました。頂果の成熟日数は36日程度、1玉30g超の大玉が中心と生育は順調です。調査は5月下旬頃まで行い、収量・品質向上へ繋げていきます。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2019.1.24
0244	農業研究部	【地球温暖化抑制へ、農地中の温室効果ガス蓄積量を調査しています】 (2018. 11. 21発信) 土壌には大気の2倍、植生の3倍の炭素が含まれると試算されており、気候変動と深い関係があります。そこで、温室効果ガス(CO ₂)排出量を算定するため、県内農地75地点から土壌を採取し、炭素成分を調査しています。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.12.21
0241	農業研究部	【小ネギのハイブリッドかん水試験開始！】 (2018. 11. 16発信) 小ネギにおいて、水管理は生育等に与える影響が非常に大きな栽培技術です。そこで、頭上からとサイドからのかん水を併用したハイブリッドかん水技術を確立することで生産安定化を図ります。	 播種の様子(10/30)	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.12.13
0234	農業研究部	【コマツナほ場で垂リン酸を使った現地試験開始！】 (2018. 11. 6発信) 11/1に中津市のほ場でコマツナの播種を行いました。基肥に垂リン酸を施用することで、根の生育が促進され、収量の向上が期待されます。今後は生育・収穫調査等を行い、垂リン酸の肥料効果を検証します。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.12.6
0230	農業研究部	【農業研究部で職場研修を実施しました！】 (2018. 11. 1発信) 10/30に、研究員の資質向上を目的とした研修を実施しました。果菜類チームによるイチゴの炭疽病検定、土壌・環境チームによる転炉スラグ投入量の算定方法という内容でした。今後も研修を計画・実施していきます。		農業研究部 企画指導担当	0974-22-0671	2018.11.29
0229	農業研究部	【大分6号(ベリー)の生育調査を行いました！】 (2018. 11. 1発信) 本県オリジナル品種「大分6号(ベリー)」を9/25までに定植しました。順調に生育しており、10/11には展葉調査を行い、10/17頃には半数の株で出蕾が確認されました。11月下旬から収穫開始となります。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2018.11.29
0211	農業研究部	【夏を乗り越え根深ネギすくすく成長】 (2018. 10. 2発信) 新方式の大苗を使って根深ネギを育てる試験を実施中です。4月に種をまき、7月に畑に植えた大苗は、苦手な夏を乗り越え、すくすく成長しています。12月頃に収穫調査を予定しています。		農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2018.11.2
0210	農業研究部	【カメムシ類防除のためのドローンによる薬剤散布試験を実施しました】 (2018. 10. 2発信) 9月28日に、大豆を吸汁する害虫であるカメムシ類を対象とした大豆へのドローン薬剤散布試験を実施しました。今後は散布後にカメムシ類がどれくらい減少したかを調査する予定です。		農業研究部 病虫害対策チーム	0974-28-2078	2018.11.2
0207	農業研究部	【キャベツほ場で垂リン酸を使った現地試験開始！】 (2018. 9. 27発信) 9/19に中津市のほ場でキャベツの定植を行いました。育苗・定植時に垂リン酸を施用することで、根の生育が良くなり、収量の向上が期待されます。今後は生育・収穫調査等を行い、垂リン酸の肥料効果を検証します。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.10.26

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0194	農業研究部	<p>【土壌水分環境試験で栽培中の小ネギを収穫しました！】(2018. 9. 13発信)</p> <p>小ネギ栽培の適正かん水量を把握する試験を実施中です。播種20日後からかん水量を慣行の半分にした区を設け栽培しました。草丈など外観品質に差は見られませんでした。肥料吸収量等の詳しい分析を行います。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.10.12
0193	農業研究部	<p>【マイナー作物試験（ソバ）】(2018. 9. 13発信)</p> <p>生産量の少ない作物は利益が得にくく、民間企業は農業の登録試験を行わない場合があります。当チームでは、ソバのべと病に対して試験を実施し登録を促進しています。現在、ソバの播種作業中です。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2018.10.12
0192	農業研究部	<p>【マイナー作物試験（バジル）】(2018. 9. 13発信)</p> <p>生産量の少ない作物は利益が得にくく、民間企業は農業登録試験を行わない場合があります。当チームでは、バジルべと病に対する農業登録試験を実施するため、9月に農業を散布し収穫時に残留農業を確認します。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2018.10.12
0191	農業研究部	<p>【稲こうじ病の山間地での発生状況調査（玖珠九重）】(2018. 9. 13発信)</p> <p>稲こうじ病は玄米に混入すると、病粒が広がり等級が下がる経済的被害の大きな病害です。当チームでは、稲こうじ病の県内分布状況の調査をするため、まず9月中旬に傾穂期になる玖珠九重方面から調査します。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2018.10.12
0190	農業研究部	<p>【ドローンを使った大豆の農業散布】(2018. 9. 13発信)</p> <p>9/18に豊後大野市上田原でドローンを使った農業散布を実施します。ドローンの防除効果は未解明な部分が多いため、同じ日に散布したブームスプレーヤー、無農業区と比較して防除効果を調査します。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2018.10.12
0176	農業研究部	<p>【病害虫の発生状況調査】(2018. 8. 16発信)</p> <p>病害虫対策チームでは、8月中旬に病害虫の発生状況を調査します。対象は県内全域の水稲・野菜等、計114圃場です。調査結果から来月の病害虫の発生状況を予測し、9月1日発表の「病害虫発生予察予報」で情報提供します。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2018.9.10
0171	農業研究部	<p>【ドローンを使った水稲の農業散布試験を実施します】(2018. 8. 3発信)</p> <p>8/17に豊後大野市三重町上田原の水田圃場でドローン（マルチローター）を使った農業散布試験を実施します。同じ日に散布したブームスプレーヤー、無農業区と比較して防除効果を調査します。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2018.8.31
0164	農業研究部	<p>【水稲病害虫の発生状況調査】(2018. 7. 25発信)</p> <p>病害虫対策チームでは8月上旬に水稲病害虫の発生状況を調査します。対象は県内全域の54圃場です。調査結果から今月のいもち病を中心とした病害虫の発生状況を予測します。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2018.8.23
0160	農業研究部	<p>【ハウス内環境制御試験用に冬ニラを定植しました】(2018. 7. 23発信)</p> <p>5月に播種したニラ「タフボーイ」を7月10日に定植しました。冬期（1～2月）の収量向上を目的に、日中の換気方法について試験を行います。収穫調査は12月から開始する予定です。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2018.8.13
0159	農業研究部	<p>【亜リン酸肥料試験用にコマツナを播種しました】(2018. 7. 23発信)</p> <p>亜リン酸肥料が育苗に与える影響を調査するため、7月13日にコマツナを播種しました。1ヶ月後に生育調査を行い、試験データを冬作の本圃試験に活用します。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.8.17

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0158	農業研究部	<p>【IoT土壌水分センサーを活用して小ネギ栽培を「見える化」試験開始】(2018. 7. 23発信)</p> <p>小ネギ栽培の「見える化」技術を構築するための試験を行っています。写真は播種して2週間後の様子です。芽も出揃い、順調に生育しており、今後は畝ごとにかん水量を変え、生育と土壌水分の関係を調査していきます。</p>	<p>7/18撮影</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.8.17
0157	農業研究部	<p>【イチゴ炭疽病の遺伝子診断を始めました！】(2018. 7. 23発信)</p> <p>イチゴの親株を増殖する際に、問題となる炭疽病を簡易検定法で確認していますが、本年からPCR法による遺伝子診断を取り入れました。これにより、簡易法で困難だった病原性の有無を判断することが可能となります。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2018.8.17
0152	農業研究部	<p>【温ガス基準点水田の田植え作業終了】(2018. 7. 11発信)</p> <p>7/5に農地土壌炭素貯留調査事業に係る場内基準点(水田)で田植え作業を行いました。本調査では有機物投入の有無等による水田土壌中の炭素や窒素の貯留量の経年変化を行います。水稲収穫後、11月には麦を播種します。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.8.10
0151	農業研究部	<p>【病害虫の発生状況調査】(2018. 7. 11発信)</p> <p>7月中旬に病害虫の発生状況を調査します。対象は県内全域の水稲・野菜等、計114圃場です。調査結果から来月の病害虫の発生状況を予測し、8月1日発表の「病害虫発生予察予報」で情報提供を行います。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2018.8.10
0145	農業研究部	<p>【ハダニ類の薬剤感受性検定試験を実施中】(2018. 7. 9発信)</p> <p>ハダニ類について薬剤感受性検定試験を行っています。ハダニ類はイチゴ等様々な品目に発生するうえ、薬剤感受性は地域間差があります。現在は県下4地域で採取した個体群を対象に試験を行っています。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2018.8.3
0133	農業研究部	<p>【パプリカの機能性成分を分析しています！】(2018. 6. 8発信)</p> <p>パプリカに含まれる機能性成分の品種別含有量や時期別変動実態を明らかにするため、毎月分析を行っています(九重町産)。今後も分析を続けるとともに、品種比較や栽培管理方法についても検討していきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2018.7.9
0130	農業研究部	<p>【イチゴの種播きを行いました】(2018. 6. 6発信)</p> <p>イチゴの新品種育成のため、播種作業を6月5日に行いました。本年は65組合せ、約5,000粒を播きました。育苗後、9月に定植を行い、11月中旬頃から収穫し、食味や外観などの評価(選抜)を行います。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2018.7.9
0129	農業研究部	<p>【県産夏秋野菜(ピーマン)の栄養・機能性成分分析を開始しました】(2018. 6. 6発信)</p> <p>豊後大野市と臼杵市で生産された夏秋ピーマンの栄養・機能性成分を評価するために、サンプリングと分析を5月末から開始しました。得られたデータは販売戦略の基礎データとして活用していきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.7.9
0128	農業研究部	<p>【稲こうじ病の薬剤試験を開始しました】(2018. 6. 6発信)</p> <p>6月1日に竹田市の現地圃場で稲こうじ病の薬剤試験を開始しました。田植え時に施用する薬剤と乾炉スラッグの組み合わせ効果を明らかにし、稲こうじ病の発生を防止します。試験結果は10月頃に判明します。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム 土壌・環境チーム	0974-28-2078	2018.7.9
0118	農業研究部	<p>【場内試験圃場に夏秋トマトを定植しました】(2018. 5. 23発信)</p> <p>5月16日に夏秋トマトを定植しました。今年度は良食味トマト栽培技術を確立するために、葉数や果数の管理方法や仕立て方法の試験を行い、糖度などの食味に関する成分に及ぼす影響を調査していきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2018.6.15

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0117	農業研究部	【白ネギ現地試験圃場に製鋼スラグを散布】 (2018. 5. 23発信) 5/10に豊後大野市にある法人の白ネギ圃場に製鋼スラグを散布しました。散布量は16t/10aで、ライムソー等を使用しました。連作障害抑制などによる増収を期待しており、本年度は他2箇所と同様の試験を行います。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.6.15
0112	農業研究部	【農地の温室効果ガス蓄積状況現地調査を開始】 (2018. 5. 8発信) 4/26の佐伯市ニラ栽培ハウスの土壌調査を皮切りに調査を開始しました。農地の温室効果ガス蓄積状況等の把握のため、水田20地点、畑地20地点、草地5地点の計45地点の土壌の炭素と窒素の調査などを行います。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018.6.15
0111	農業研究部	【試験研究に用いるトマト苗が順調に育っています】 (2018. 5. 8発信) 3月14日に播種したトマトが順調に生育しています。今年度は良食味トマト栽培技術を確立するために、葉数や果数管理の検討など各種試験を行う予定で、5月中旬に定植を行います。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2018.6.15
0108	農業研究部	【大きく丈夫に育ってね、根深ネギ苗生育順調！】 (2018. 4. 27発信) 試験用の根深ネギ苗が順調に生育中です。県が開発した新方式の大育苗技術を生産現場に役立てるべく、各種試験を進めて行く予定です。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2018.5.26
0105	農業研究部	【大麦焼酎粕濃縮液を肥料活用！収穫期を迎えた小ネギ】(2018. 4. 23) 収穫直前(4月上旬)の小ネギの様子です(左側：焼酎粕区、右側：対照区)。今年は冬の低温の影響により、収穫時期が遅れました。焼酎粕区の方がやや収量が高い結果となり、肥料としての活用に期待が持てます。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2018. 5. 15
0097	農業研究部	【ピーマンの試験準備完了 ヤシガラ培地利用型栽培システムの開発】(2018. 4. 12発信) 3月26日にピーマンの定植が完了し、試験に向けた準備が整いました。土壌病害の発生を防ぐため、ヤシガラ(椰子殻)培地を利用した隔離栽培(土に直接植えない栽培方法)技術の開発に取り組みます。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2018.5.10
0096	農業研究部	【パブリカの周年安定生産に貢献 基礎データの収集調査と情報提供】(2018. 4. 12発信) 大半のパブリカの品種は海外で開発されるため、本県に適した品種選定を目的に収量・品質を中心とした調査をしています。また、栽培環境を適正条件に調整できるよう温湿度等の調査結果を生産者へ提供しています。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2018.5.10

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結 (合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
②水田農業グループ (計23件)						
0275	水田農業グループ	<p>【麦の作柄について】 (2019. 1. 28発信)</p> <p>当グループのホームページで、麦の作況判定試験結果を公表しています。暖冬傾向なため、ニシノホシ、ミナミノカオリなど主要品種の生育は平年より進んでいます。(写真は、幼穂の調査状況)</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2019.4.24
0247	水田農業グループ	<p>【麦類排水対策の現地試験を開始】 (2018. 11. 28発信)</p> <p>麦播種前の乾田化対策の実証試験を県内3か所で行っています。額縁排水、弾丸暗きよ(土中に排水穴を作る)、スタブルカルチ(作土の荒耕)など新技術と既存技術を活用することで排水性や増収効果を検証します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2019.4.24
0288	水田農業グループ	<p>【例年より早く麦類の穂肥を施肥】 (2019. 2. 20発信)</p> <p>今年は温暖傾向で麦類の生育が進んでいるため、平年より7~14日早く穂肥を散布しています。当グループHPの作況情報に今後実施すべき施肥、雑草防除などを掲載していますので参考にしてください。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2019.3.29
0265	水田農業グループ	<p>【品種選定試験の成績検討を実施】 (2018. 12. 28発信)</p> <p>水稲、大豆の収穫後、収量・品質調査を経て試験成績書を作成します。1月以降に国内各地で各種の成績検討会が開催されるため、研究員全員で試験成績の検討を行い内容を修正するとともに、情報を共有します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2019.3.29
0277	水田農業グループ	<p>【視察研修が目白押し】 (2019. 1. 29発信)</p> <p>県内3か所と三重県からの視察に加え、2月には福岡県の技術者や農業委員会など4か所が来所します。当グループが技術確立した水田畦畔雑草管理や大豆雑草防除に関する研究成果は確実に現地に浸透しています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2019.3.28
0264	水田農業グループ	<p>【水稲の作柄について】 (2018. 12. 28発信)</p> <p>当グループのホームページで、水稲の作況判定試験結果を12/27に公表しました。ヒノヒカリ、つや姫など主要品種の収量は概ね平年並で、農水省が発表した作況(大分県作況指数100)と概ね同様の結果となりました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2019.2.28
0236	水田農業グループ	<p>【今年もやります！米の食味試験で味・香り・粘りなどを評価します】 (2018. 11. 8発信)</p> <p>水稲の良品種を選定するうえで重要な判断材料になる食味官能試験を12月を中心に実施します。県の奨励品種候補である新品種を研究員が食べて、外観、香り、味、ねばり、硬さの5項目を調査し、総合的に評価します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.12.28
0228	水田農業グループ	<p>【額縁排水施工を実施し水田の排水性を高める】 (2018. 10. 25発信)</p> <p>カットドレーンによる暗きよ施工(土中に排水穴を作る)を行った水田で同時に溝上機で水田周囲に額縁状に排水溝を作りました。排水性を高めるため、暗きよと額縁排水を組み合わせを行い、排水効果を検証します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.12.28
0227	水田農業グループ	<p>【カットドレーン施工による水田の排水性評価】 (2018. 10. 25発信)</p> <p>水田の外に不要な水を排出するため、カットドレーンという専用機械により深さ50cmの土中に排水穴を作りました。麦播種前に実施することで、水田の排水性の改善や麦の増収効果を検証します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.12.28
0219	水田農業グループ	<p>【稲の坪刈り調査の最盛期です】 (2018. 10. 18発信)</p> <p>水稲の収量、品質を評価するために、成熟期を迎えた稲を試験区毎に手刈りします。稲は乾燥後、脱穀、籾摺りし収量を調査します。また、外観品質や食味の調査を行い、品種特性や栽培方法による違いなどを評価します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.11.29

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0204	水田農業グループ	<p>【今年も水稲の高温検定を実施中】 (2018. 9. 21発信)</p> <p>近年、水稲の登熟する9月の気温が非常に高く、白未熟粒、不稔など品質や収量の低下する事例が増加しています。水稲の品種選定試験では、高温条件になるよう温室内で栽培管理し各品種の高温耐性を評価しています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.10.30
0202	水田農業グループ	<p>【トビロウカノカの発生状況調査に協力】 (2018. 9. 21発信)</p> <p>豊後高田市と宇佐市で(株)オプティムが生産農家と実施しているスマート農業アライアンス(ウヅカによる坪枯れをドローン空撮で予測し農薬をスポット散布するシステム)調査を北部振興局と共同で行っています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.10.30
0181	水田農業グループ	<p>【大豆の作柄調査結果の配信が始まります】 (2018. 8. 27発信)</p> <p>当グループでは、大豆の生育状況を調査し、年3回(8月下旬、10月中旬、1月)ホームページ等で情報提供しています。今年は、無降雨の期間が長かったことから、作柄への影響が心配されます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2019.1.30
0179	水田農業グループ	<p>【水稲の作柄状況を配信中心!】 (2018. 8. 27発信)</p> <p>当グループでは、水稲の主要品種の生育状況、栽培上の留意点などをホームページ等で定期的に配信しています。本年の水稲は、高温で日照に恵まれたため、草丈は平年並、莖数は平年を上回り旺盛な生育が見られます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.9.28
0162	水田農業グループ	<p>【ドローンで雑草の発生実態を調査中】 (2018. 7. 24発信)</p> <p>梅雨明け以降、ドローンを利用し雑草を調査しています。どうもろこし畑のように草丈が高く、人が入りにくい場所でも、上空から撮影することで圃場内の雑草の発生実態が一目でわかります。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.9.28
0156	水田農業グループ	<p>【大豆摘芯の現地実証を行います】 (2018. 7. 23発信)</p> <p>7/24~8/1に県内5か所の大豆圃場で摘芯栽培の現地実証を行います。摘芯栽培とは、早播きした大豆の茎の先端を専用機械でカットすることで、倒れにくくすることで、安定した収量・品質を確保するものです。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.9.28
0154	水田農業グループ	<p>【大豆播種の最盛期です!】 (2018. 7. 13発信)</p> <p>7/9に梅雨明けし、大豆の播種が始まりました。原種の生産では機械播種を行いますが、作柄判定試験、奨励品種選定試験では、生育、収量、品質など高精度のデータが要求されるので、出芽後1株2本に仕立てます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.8.15
0143	水田農業グループ	<p>【水稲乾田直播栽培その後 ②除草剤試験】 (2018. 6. 28発信)</p> <p>水稲乾田直播栽培において、生育初期の雑草対策が重要なため、除草剤の試験を行っています。効果の高い区では、ほとんど雑草が発生していませんが、無処理では、雑草が繁茂している状況が確認できます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.8.30
0142	水田農業グループ	<p>【水稲乾田直播栽培その後 ①出芽】 (2018. 6. 28発信)</p> <p>水稲乾田直播栽培の場内試験では、出芽期を向かえています。直播を行った水田では、移植したように揃った稲が順調に生育しています。今後、現地試験も併せて稲の本数や草丈などを定期的に調査していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.8.30
0131	水田農業グループ	<p>【今年も田植えのシーズンに入りました!】 (2018. 6. 8発信)</p> <p>6/8から田植えが始まりました。主食用米、飼料用米、酒造好適米、業務用米、糴米、原種種子など様々な品種・用途を移植します。品種の特性を把握していくため、手植えを行う試験もあり、この時期の風物詩です。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978-37-1160	2018.6.29

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0113	水田農業グループ	<p>【水稲乾田直播栽培の現地実証が始まりました】 (2018. 5. 11発信)</p> <p>水稲乾田直播栽培の普及拡大に向け、県内各地の水田13経営体で実証を行います。5/10の竹田市を皮切りに6月上旬まで、一部では(国研)農研機構と(株)アグルテクノ矢崎が開発中の播種機による実証も行う予定です。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978- 37-1160	2018.6.15
0110	水田農業グループ	<p>【水稲乾田直播技術の勉強会を開催しました】 (2018. 5. 8発信)</p> <p>水稲乾田直播栽培の普及拡大に向けて、県内全域で実証を行っています。4/25にグループ内で各地域を担当する普及指導員を対象に種子や肥料の調整方法の実習を行い、実証の成功に向けて準備をすすめていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978- 37-1160	2018.5.30
0104	水田農業グループ	<p>【麦が出穂しました！】(2018. 4. 23発信)</p> <p>当グループの試験圃場で麦穂が出揃いました。品種選定試験では、麦種や品種ごとに、穂の出るタイミングや穂の形状などが異なるため、それぞれの特性について調査しています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当	0978- 37-1160	2018.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
③果樹グループ (計17件)						
0313	果樹グループ	【大分上野丘高等学校化学部が研究報告を実施】 (2019. 3. 27発信) 大分上野丘高校化学部では、特許を取得している「酸度簡易測定」についてミカンの酸度測定の実用化を目指した研究を行っており、これまでの成果を3月29日(13:30~)果樹グループ(国東)で発表します。		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2019.4.5
0287	果樹グループ	【ハウスミカンにおける生物農薬(天敵)の現地試験を開始】(2019. 2. 20発信) スワルスキーカブリダニ(天敵)によるミカンハダニの密度抑制についての現地試験を杵築市の3カ所で行いました。今後、天敵ダニが長期間活動しやすい2つの資材(写真)の実用効果を検証します。		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2019.3.29
0273	果樹グループ	【開花期加温栽培の試験を開始】 (2019. 1. 22発信) 「不知火」等の施設中晩柑栽培で、開花期を中心に短期間のみ加温する試験を開始しました。これにより燃料削減及び高糖度果実生産技術を開発する予定です。		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2019.3.29
0283	果樹グループ	【カンキツ簡易ハウスの保温対策試験を開始】 (2019. 2. 13発信) 寒波による凍害を受けやすい簡易ハウスで「油だき可搬形ヒータ・熱風式直火形(写真)」を使用して、凍害を防止する保温試験を始めました。低温が予想される日に稼働させ、ハウス内温度を調査します。		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2019.2.28
0252	果樹グループ	【ハウスミカンに「ちょうど良い」水の量を解明する試験がスタート】(2018. 12. 12発信) 高品質なハウスミカンを生産するのに必要な水やり量(かん水)を明らかにする試験研究がスタートしました。11月25日に暖房を開始し、開花(満開)は12月下旬、果実の収穫は6月下旬の見込みです。		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2019.1.24
0233	果樹グループ	【ドローン撮影画像の解析(図面化と数値化)を開始します】(2018. 11. 5発信) 高品質みかんを生産するため、ドローンで撮影した画像から園全体や樹毎の生育状況の把握が可能なかどうかの調査を行っています。11月から空撮画像データをマッピングソフトで解析し実用化の可能性を検討します。		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2018.12.5
0216	果樹グループ	【大分果研4号「ゼリーオレンジ・サンセレブ」の外観向上試験調査を開始】(2018. 10. 16発信) 「大分果研4号」はゼリーのような食感が特徴の県オリジナル品種です。果皮が弱く傷みやすいため、収穫期まで果実を保護する被覆資材試験を行っています。9/27から果実肥大・品質調査を開始し収穫期まで行います。		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2018.11.29
0187	果樹グループ	【シャインマスカットの品質調査開始】 (2018. 9. 3発信) 品質調査を8/27から開始しました。県内では、9月に出荷が集中し単価が下がるため、出荷時期の分散を目指した試験を実施しています。今後は遮光率の異なる果実袋が収穫時期や果実品質に与える影響を調査します。		果樹グループ ナシ・ブドウチーム	0978-37-0149	2018.10.30
0186	果樹グループ	【カボス緑色向上試験果実の収穫・貯蔵開始】 (2018. 9. 3発信) 試験果実の収穫・貯蔵を8/20に開始しました。貯蔵用は緑色を濃くするため7月から反射マルチで効果検証しています。収穫前の果皮色調査では緑色が向上しました。貯蔵終了まで品質と合わせ定期調査をします。		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2018.12.27
0183	果樹グループ	【現地試験圃での生産者研修実施】 (2018. 8. 30発信) カルシウム剤を利用した温州みかんの日焼け防止試験成果の確認のため杵築市で現地試験を行っています。8/24この圃場で県下の生産者研修会が開催され、試験状況を報告しました。9月に収穫調査を行う予定です。		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2018.9.28

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0153	果樹グループ	<p>【ナシ系統適応性試験の収穫調査開始】 (2018. 7. 13発信)</p> <p>国育成品種の青ナシ「筑波59号」の収穫調査を 7/9から開始しました。今年は、早生品種の開花期が他の品種も含め概ね10日早いため平年より早い収穫が見込まれます。今後は、果実肥大や品質を見極めながら調査します。</p>		果樹グループ ナシ・ブドウチーム	0978-37-0149	2018.8.17
0137	果樹グループ	<p>【ゴマダラカミキリの薬剤試験を開始】 (2018. 6. 20発信)</p> <p>カンキツの害虫「ゴマダラカミキリ」の薬剤の効果を確認するため、試験に使用する成虫の捕獲、飼育を開始しました。今後、薬剤を散布したミカン樹に飼育した成虫を放ち、殺虫効果を確認します。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2018.6.29
0134	果樹グループ	<p>【2018年産ハウスミカンの収穫開始】 (2018. 6. 8発信)</p> <p>高収量、省エネルギー、省力化となる新しい栽培技術の確立に関する試験研究を行っています。今年度からは合理化した水管理に関する試験などに着手しています。6月15日には今年度の収穫はほぼ終了します。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2018.6.29
0126	果樹グループ	<p>【平成30年度の果樹の生育情報の公開を開始】 (2018. 6. 4発信)</p> <p>試験場内の生育状況を果樹グループHPで公開しています。今年度は、カンキツ類の発芽・開花情報を5/18から、落葉果樹類の発芽・開花情報を5/25から公開しています。今後、果実肥大・品質の情報を提供する予定です。</p>		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2018.10.30
0125	果樹グループ	<p>【アザミウマの新たな防除方法の試験を開始】 (2018. 6. 4発信)</p> <p>施設カンキツの害虫「アザミウマ類」の被害防止のため、着色ネットでハウス内への侵入を抑える試験をしています。昨年度、効果が見込まれた「赤色ネット」を5/8に試験樹に設置しました。今後、発生状況を調査します。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2018.7.31
0103	果樹グループ	<p>【醸造用(ワイン用)ブドウ新品種候補の生育調査を開始】(2018. 4. 23発信)</p> <p>県内に自生している野生ブドウ(エビヅル)を育成親にした醸造用ブドウ新品種開発が8年目を迎え、有望な12系統の収量性、耐病性、醸造品質の特性解明を行っています。今年4/21に発芽が始まり生育調査を開始しました。</p>		果樹グループ ナシ・ブドウチーム	0978-37-0149	2018.5.18
0099	果樹グループ	<p>【大分県産越冬完熟不知火「デコ330」の収穫調査を行いました】(2018. 4. 16発信)</p> <p>樹に成らせたまま越冬し完熟して収穫する「デコ330」の収穫を4月2日に行いました。ビニール被覆(右丸写真)により水腐れの発生はみられず、果実品質は平均糖度15.6でした。今後は堆肥の施用方法の試験を行います。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2018.5.18

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
④花きグループ (計11件)						
0296	花きグループ	<p>【オリジナルスイートピーの開花調査】 (2019. 2. 22発信)</p> <p>当グループでは新たな花色のスイートピーの作出を目的に育種を行っており、開花調査の最盛期を迎えています。3月までに濃いピンクやオレンジなど、花色や品質が優れた系統を選抜する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2019.3.29
0266	花きグループ	<p>【12月20日にリシアンサス(トルコギキョウ)品種検討会を開催しました】 (2018. 12. 28発信)</p> <p>当日は、リシアンサスの生産者等48名に会場いただき、実際に花を見ながら品種検討を行いました。今後も生産者が最適な品種選定を行えるように本検討会を継続して開催していきます。(詳細:花きグループHP) http://www.pref.oita.jp/soshiki/15086/eustoma.html</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2019.1.31
0248	花きグループ	<p>【少量培地栽培技術を活用した正月向け切り花ハボタンの調査が始まります】 (2018. 11. 28発信)</p> <p>本県のオリジナル栽培技術である水稲育苗箱を利用した少量培地栽培において、冬季の主力品目であるハボタンの調査が始まります。現地においても12月から出荷が始まります。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2018.12.13
0246	花きグループ	<p>【12月20日(木)にトルコギキョウ生産者を対象とした品種検討会を開催します】 (2018. 11. 26発信)</p> <p>当グループ研究圃場ではオリジナル品種や種苗会社7社の最新品種など47品種を栽培しています。当日は生育状況の確認や品種特性の紹介や情報交換を行い、生産者が最適な品種選定を行えるよう支援していきます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2018.12.21
0218	花きグループ	<p>【ヤマジノギクの開花調査が始まります】 (2018. 10. 17発信)</p> <p>本県のオリジナル花き品目であるヤマジノギクについて、育成から年月がたち分離が生じた系統の入れ替え等を目的に、新たな系統の育成を行っています。本年も10月~11月中旬にかけて優良系統の選抜を行います。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2018.11.16
0180	花きグループ	<p>【少量培地栽培の開花調査(夏季品目)が始まります】 (2018. 8. 27発信)</p> <p>本県のオリジナル栽培技術である水稲育苗箱を利用した少量培地栽培において、夏季の有望品目として試験中の「トルコギキョウ」、「ケイトウ」の開花が来週から順次始まります。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2018.9.3
0167	花きグループ	<p>【露地小ギクの安定出荷技術の実証】 (2018. 7. 30発信)</p> <p>露地で栽培される小ギクはお盆やお彼岸には欠かせない花ですが、近年異常気象の頻発で開花時期の調整が難しくなっています。当グループでは電照を用いた8、9月安定出荷技術の実証に取り組んでいます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2018.9.7
0166	花きグループ	<p>【ホオズキの収穫調査まもなく開始】 (2018. 7. 30発信)</p> <p>県で生産が盛んなホオズキは、お盆には欠かせない花材で贈答用の高級品からお墓や仏壇用の手頃な価格帯まで幅広い需要があります。グループではその幅広い需要に応えるための栽培技術開発に取り組んでいます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2018.8.3
0155	花きグループ	<p>【超微粒ミストを利用した輪ギク密植栽培の試験を実施中】 (2018. 7. 23発信)</p> <p>超微粒ミストを使用して夏季のハウス内温度を低下させると、品質向上効果があることを明らかにしました。今年は密植による品質低下を防止し、増収が可能か検討しています。開花調査は9月上中旬の予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2018.9.21
0127	花きグループ	<p>【切り花として使いやすい草花が栽培できる少量培地栽培の開花調査が始まります】 (2018. 6. 5発信)</p> <p>本県のオリジナル栽培技術である水稲育苗箱を利用した少量培地栽培において、夏季の有望品目として試験中の「カルタムス(ベニバナ)」「フプレウラム」「マイクローアスター」の開花が来週から順次始まります。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2018.6.29

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0102	花きグループ	<p>【母の日出荷目前！チェリービーシリーズに待望の新色 現地試作順調】 (2018. 4. 23発信)</p> <p>県オリジナル鉢物用トルコギキョウ「チェリービー」の新花色である青紫色系統を臼杵市の鉢物農家で試作しています。生育は順調で母の日を前に今週から従来の3色とあわせて約7,000鉢が県内外市場に出荷されます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2018.5.7

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑤畜産研究部 (計29件)						
0307	畜産研究部	【研究部内で野焼きを実施中です！】 (2019. 3. 20発信) 久住の春の風物詩である「野焼き」を3/8から研究部内採草地等で開始しました。野焼きは枯れ草に火を入れることで害虫駆除、若芽の成長促進及び環境保全を図るものです。天候を考慮し、3月下旬まで実施予定です。		畜産研究部 飼料・環境チーム	0974-76-1248	2019.3.29
0302	畜産研究部	【平成30年度就農準備研修が修了しました】 (2019. 3. 11発信) 3月5日、大分県立農業大学校で上記研修の閉講式が執り行われました。同研修畜産コースの研修生は、昨年4月から主に当研究部で牛の飼養管理等を研修しており、今後は畜産後継者としての活躍が期待されます。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2019.4.10
0292	畜産研究部	【現場後代検定合同調査会で候補種雄牛「隆之森」産子が好成績】 (2019. 2. 22発信) 2/14、京都市で上記調査会が開催され、12道県から42頭の枝肉が出品されました。当研究部が出品した去勢牛3頭の平均値は、全ての枝肉形質で全国平均を上回り、特にBMS、Noは3頭中2頭が最高のNo12と良好な成績でした。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2019.3.25
0290	畜産研究部	【短期肥育した黒毛和種肥育牛の食味試験を行いました】 (2019. 2. 20発信) 県産飼料を活用し肥育期間を3ヶ月短縮した和牛肉の食味試験を別府大学で行いました。牛肉は、香り、やわらかさ、味等の各評価項目で慣行区との差はなく、美味しかったと高評価でした。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2019.3.20
0278	畜産研究部	【新たな種雄牛ポスターを作成しました】 (2019. 1. 29発信) ゲノム育種価を活用して作成した種雄牛3頭（「葵白清」「加代白清」「勝美2」）を県内外にPRするためポスターを作成しました。このポスターは畜産研究部HPからもご覧になれます。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2019.2.28
0272	畜産研究部	【「種雄牛造成」に関する講演を行いました】 (2019. 1. 18発信) 1月15日、大分市で肉用牛生産者団体の研修会があり約50名が参加しました。当部からは「ゲノム育種価を活用した種雄牛造成」の演題で研究状況や造成された候補種雄牛の紹介等を行いました。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2019.2.20
0268	畜産研究部	【「葵白清」と「加代白清」の凍結精液譲渡を開始しました】 (2019. 1. 10発信) 「ゲノム育種価」を活用して作成した候補種雄牛2頭の精液譲渡を12月から開始しました。通常、産肉成績の判明していない種雄牛の精液譲渡はほとんどありませんが、今回は約1,400本の注文がありました。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2019.2.15
0259	畜産研究部	【農業高校で、豚凍結精液融解法の実習を行いました】 (2018. 12. 25発信) 県外の農業高校から豚凍結精液の購入依頼があり、12月14日、同高校で担当教諭及び3年生で養豚を専攻している16名の学生に対し、凍結精液の特徴・使用方法の説明と融解方法の実演・実習を行いました。		畜産研究部 豚・鶏チーム	0974-22-0673	2019.1.21
0257	畜産研究部	【ゲノム選抜手法普及セミナーが開催されました】 (2018. 12. 21発信) 肉用牛のゲノム(全遺伝情報)を活用した新たな評価法啓発のため12/13別府市で「ゲノム選抜手法普及セミナー」が開催されました。鳥取県畜産試験場及び家畜改良事業団の講師を招き、生産者等約140名が参加しました。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2019.1.21
0255	畜産研究部	【家畜人工授精講習会が終了しました】 (2018. 12. 18発信) 11/5から当部において開催された家畜人工授精講習会(牛)は12/4に終了し、講習会終了後修業試験が実施されました。今年度の受講生15名は全員合格し、人工授精師として今後の活躍が期待されます。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2019.1.16

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0243	畜産研究部	【豊の国かぼす大使会等関係者が来庁】 (2018. 11. 20発信) 11/14、豊の国かぼす大使会と大分かぼす会関係者36名の視察がありました。研究概要とゲノム育種価の説明を行った後、一同は種雄牛舎に移動し種雄牛(平福安号、桜花久号、葵白清号等)の大きさに大変驚いていました。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2018.12.20
0238	畜産研究部	【家畜人工授精講習会(牛)を開催中】 (2018. 11. 9発信) 11/5~12/4の間、県が主催する標記講習会を研究部内で開催しています。今年度は15名(農大生、畜産研修生、自営、農協職員他)の受講生が家畜人工授精師免許の取得を目指しています。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2018.12.5
0231	畜産研究部	【日本暖地畜産学会長崎大会が開催されました】 (2018. 11. 1発信) 10/20~21日本暖地畜産学会長崎大会が開催され、当部からは「乳牛の体温動態に応じた暑熱対策の検討」の演題で研究発表を行いました。総会で次年度開催県は大分県に決定しました。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2018.11.29
0226	畜産研究部	【県畜産共進会(肉用牛の部)で県種雄牛産子が最高賞受賞】(2018. 10. 25発信) 10/14の県共肉用牛(於:別府公園)の部に黒毛和種繁殖雌牛49頭が出品され、農水大臣賞に第6区(繁殖雌牛群)出品の「みほ24」「みほ28」の母娘セットが選ばれました。両牛の父系3代祖は県種雄牛で、改良成果を示せました。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2018.11.15
0223	畜産研究部	【県畜産共進会(肉牛の部)で「平福安」産子が最優秀賞受賞】(2018. 10. 23発信) 10/6大分県畜産公社で県共肉牛の部が開催され、黒毛和種肥育牛40頭(2頭参考出品)、交雑種10頭が出品されました。黒毛和種の最優秀賞には、BMS、No12・重量610.5kg・ロス芯面積83cm ² で脂肪交雑や枝振りが高く評価された県種雄牛「平福安」産子が選ばれました。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2018.11.15
0214	畜産研究部	【候補種雄牛を種雄牛舎に移動しました】 (2018. 10. 10発信) 9/13に開催した選抜会で選ばれた4頭の候補種雄牛のうち、加代白清、勝美2、葵白清の3頭を直接検定牛舎から種雄牛舎に移動しました。今後は年末からの譲渡に備えた凍結精液の製造を開始します。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2018.10.30
0208	畜産研究部	【レンタカウによる放牧馴致を開始】 (2018. 9. 27発信) 9/20に佐伯市でおいた型放牧が新たに開始されました。放牧未経験牛1頭の放牧馴致を目的に、当部のレンタカウ(黒毛和種)2頭を貸出し、水田等1haに3頭が放牧されています。		畜産研究部 企画指導担当 又は 飼料・環境チーム	0974-76-1214	2018.10.30
0199	畜産研究部	【候補種雄牛の一次選抜会を開催】(2018.9.18発信) 9/13肉用牛改良組合等関係者約150人が出席し、種雄牛「百合白清2」の息牛(直接検定を終了した6頭)の一次選抜会を行いました。これらの牛は新たな産肉能力評価法「ゲノム育種価」を活用して造成したもので、出席者アンケートでは「葵白清」が一番人気となり同牛を含む4頭が選抜されました。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1216	2018.10.18
0198	畜産研究部	【農場防疫体制を強化しました】 (2018. 9. 18発信) 9/9、岐阜県の養豚農場で我が国では26年ぶりに豚の伝染病(豚コレラ)が確認されました。豚・鶏チームでは翌10日以降、従来の消毒体制に加え養豚農場内及び入口駐車場に石灰散布を行い防疫体制を強化しています。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1216	2018.10.18
0197	畜産研究部	【畜産団体職員の研修を行いました】 (2018. 9. 18発信) 9月10日~14日の5日間、大分県畜産協会の新採職員2名を受け入れ、畜産現場実地研修を行いました。2人も牛の飼養管理の仕事は初めてで、毎日肉用牛・乳用牛の管理業務に取り組みました。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1216	2018.10.18

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0175	畜産研究部	<p>【2018大分県黒毛和種 種雄牛パンフレット作成】 (2018. 8. 16発信)</p> <p>平成30年度版「大分県黒毛和種 種雄牛パンフレット」が発刊され、当部に繋留する基幹種雄牛10頭の血統・育種価・遺伝的寄与率等の情報、待機種雄牛16頭の血統情報等を紹介しています。当部HPからも閲覧できます。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1216	2018.9.14
0174	畜産研究部	<p>【獣医系大学生のインターンシップ研修を実施中】 (2018. 8. 10発信)</p> <p>当部では、公務員獣医師を目指す獣医系大学生のインターンシップ研修を行っています。8月6日、20日、27日、9月10日の4日間で13名の研修生を受け入れ、種雄牛の視察や試験研究課題について研修します。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1216	2018.9.10
0170	畜産研究部	<p>【農研機構国際シンポジウムが開催されました】 (2018. 7. 31発信)</p> <p>7/27別府市において県内外から約150名が参加し「土地利用型肉牛生産の持続的発展に向けて」をテーマに国際シンポジウムが開催され、当部から「大分県におけるレンタカウの取り組み」のポスター発表を行いました。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1216	2018.8.31
0168	畜産研究部	<p>【高校生の家畜審査競技会が開催されました】 (2018. 7. 31発信)</p> <p>7/27当部で日本学校農業クラブ全国大会家畜審査競技会(肉牛の部)県選考会の黒毛和種育成牛と子牛の審査が高校生6人に対し行われ、最優秀賞と優秀賞の2名に全国大会(鹿児島県10月)の参加資格が与えられました。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1216	2018.8.31
0163	畜産研究部	<p>【定期種畜検査が実施されました】 (2018. 7. 24発信)</p> <p>精液を譲渡する種雄牛及び種雄豚は、家畜改良増殖法により(独)家畜改良センターが行う定期種畜検査を毎年受検しています。本年度は7/18に種雄豚(25頭)、7/19に種雄牛(32頭)の検査があり全頭合格しました。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1216	2018.8.20
0140	畜産研究部	<p>【獣医職員への技術研修を実施しています】 (2018. 6. 26発信)</p> <p>畜産研究部では、家畜保健衛生所に勤務する新人獣医職員等を対象に、毎年技術研修会を実施しています。今年度は5月に中小家畜の保定・採血技術、6月には牛の繁殖技術の研修を行っています。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2018.7.10
0132	畜産研究部	<p>【大分県肉用牛改良組合連合会総会が開催されました！】(2018. 6. 8発信)</p> <p>6月6日、当部にて県肉用牛改良組合連合会総会が関係者約80名が出席し開催され、種雄牛の産肉能力検定や県有種雄牛の広報、肉用牛改良研修会の開催など本年度の事業計画を決定しました。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2018.7.6
0114	畜産研究部	<p>【牧草の収穫作業が始まりました】 (2018. 5. 16発信)</p> <p>採草地65haで一番草の収穫作業が4月26日から始まり、4月30日にまず9.5ha分76個のロールを調製・収納しました。これから11月にかけて、引き続き二番草、三番草まで収穫作業が行われます。</p>		畜産研究部 飼料・環境チーム	0974-76-1248	2018.6.7
0106	畜産研究部	<p>【平成30年度の種雄牛造成方針等を決定】 (2018. 4. 25発信)</p> <p>4/17県肉用牛改良推進協議会(県内の肉用牛育種改良組合長等で構成)にて、肉用牛生産者組織等の意見聴取をふまえて策定しゲノム育種価の活用等の新しい方法を取り入れた今年度の種雄牛造成方針を決定しました。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2018.5.24

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑥林業研究部 (計21件)						
0304	林業研究部	【大断面製材品について様々な乾燥方法による強度性能を評価しています(第2報)】(2019. 3. 15発信) 公共建築物に使われる大断面製材品が安心して使用できるように、様々な乾燥方法による大断面製材品を作成し、曲げ試験等の強度性能評価試験を実施しています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2019.3.29
0297	林業研究部	【ツリーシェルター等のシカ害防除効果を検証しています】(2019. 2. 26発信) 植栽地のシカ被害対策として広く普及しているシカネットの管理が山林管理者の大きな負担となっていることから、シカネットを使わないツリーシェルター等のシカ害防除効果を検証しています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2019.3.13
0280	林業研究部	【一般流通製材を用いた大断面柱材を開発しています】(2019. 2. 13発信) 中規模木造公共建築が準耐火構造で建築可能となったことを受け、低コストな乾燥材が入手しやすい一般流通材を組み合わせた燃えしろ設計に対応する大断面柱材の性能評価を実施しています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2019.2.27
0279	林業研究部	【ヒノキ優良品種の選抜に取り組んでいます】(2019. 1. 30発信) 次世代の森林づくりのためにヒノキ優良品種の選抜に取り組んでいます。現在、当研究部が設定したヒノキ精英樹クローン集植所にて立木の強度測定を実施中です。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2019.2.14
0270	林業研究部	【寸法安定性の高い高品質乾燥材生産技術の開発に取り組んでいます】(2019. 1. 16発信) 中大規模木造建築等における構造材として県産スギ平角材の活用を図るため、蒸気式乾燥に高周波乾燥等を組み合わせ、短期間で内部割れのない寸法安定性の高い高品質な乾燥材生産技術の開発に取り組んでいます。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2019.1.30
0260	林業研究部	【内装・家具に最適な木材乾燥技術を開発しています】(2018. 12. 26発信) 県産木材を乾燥する際に発生し、商品価値を著しく低下させる「積木痕(さんぎこん)」が発生しない乾燥技術を確立するために、様々な積木の材料や乾燥条件について技術開発を実施しています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.11.11
0251	林業研究部	【スギ花粉発生源地域推定事業を実施しています】(2018. 12. 12発信) スギ花粉発生源対策を効果的に推進していくため、(一社)全国林業改良普及協会からの委託を受け、県内の11月中下旬のスギ雄花着生状況を毎年度調査しています。昨年度よりドローンによる調査方法も試行中です。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.12.27
0245	林業研究部	【大断面製材品について様々な乾燥方法による強度性能を評価しています】(2018. 11. 21発信) 公共建築物に使われる大断面製材品について、乾燥方法や強度性能の試験を行っており、木造化を推進するためのデータを収集しています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.12.6
0237	林業研究部	【次世代の森林づくりに向けたヒノキ優良品種の選抜を行っています】(2018. 11. 9発信) ヒノキの低コスト造林と育林の推進に向け、県内適応性、初期成長等の各特性が優れた優良品種の選抜に取り組んでいます。過去に設定した品種の特性を調査するため種の挿し付けを行いました。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.11.21
0221	林業研究部	【ツリーシェルター等のシカ害防除効果の確認を開始しました】(2018. 10. 19発信) ツリーシェルター等シカネットを使わない方法でのシカ害防除効果の確認を開始しました。様々な種類のツリーシェルターとあわせて比較対象のシカネットを試験地に設置し、コストと効果を比較検証しています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.11.2

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0212	林業研究部	【正確な森林資源情報の提供のため地上型3Dレーザースキャナーを活用しています】(2018.10.4発信) 正確な森林資源情報の提供のため地上型3Dレーザースキャナーを用いて、県内全域の林分調査を実施し、516林分のデータを取得しました。調査は終了し、収穫予想表の修正作業を行っています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.10.18
0201	林業研究部	【ミニ種の秋期密閉さし試験(第2期)を生産者団体と共に開始しました】(2018.9.19発信) スギ推奨品種さし木苗の増産のため、昨秋に実施したミニ種の秋期密閉さし試験(第1期)から得られた知見と組合員からの要望を踏まえ本年の秋期密閉さし試験(第2期)のさし付け作業を開始しました。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.10.5
0188	林業研究部	【寸法安定性の高い高品質乾燥材生産技術の開発に取り組んでいます】(2018.9.5発信) 公共建築の中大断面材利用や、住宅のパネル工法やZEHに対応する寸法安定性の高い梁桁材へのニーズに応えるため高周波や減圧乾燥等の組み合わせによる寸法安定性の高い高品質な乾燥技術に取り組んでいます。 (※ZEH: ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.9.21
0178	林業研究部	【「スギさし木苗増産に向けた採種・育苗方法の提案」を発行しました】(2018.8.22発信) 再造林のためのさし木苗の需要増加に対応するため、1.従来より小型のミニ種を用いて苗木を増産する技術と2.秋の徒長を防いで得苗率を向上させる技術の試験結果をまとめた普及パンフレットを発行しました。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.9.5
0173	林業研究部	【抵抗性マツ生産用のマツノサイセンチュウ懸濁液を提供しています】(2018.8.9発信) マツ材線虫病に抵抗性がある苗木を生産するため生産者のマツノサイセンチュウ人工接種による抵抗性確認を行っています。生産者の依頼で培養したサイセンチュウを洗い出し、接種用懸濁液を提供しています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.8.27
0169	林業研究部	【ミニ種の秋期密閉さし試験の経過について苗木生産者団体に報告しました】(2018.7.31発信) スギ苗木需要急増に対応するため苗木生産者団体と共同で、ミニ種の秋期密閉さし試験に取り組んでいます。ビニールトンネルで密閉育成したミニ種苗木の発根状態について7月25日に苗木生産者団体に報告しました。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.8.14
0149	林業研究部	【ヒノキ優良品種の選抜に取り組んでいます】(2018.7.10発信) 利用期を迎え主伐が進む人工林の再造林に向け、成長が早く形質の優れたヒノキの優良品種の選抜に取り組んでいます。県内のヒノキ検定林や当研究部試験林の毎木調査を実施し、成長特性等を確認しています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.8.8
0141	林業研究部	【スギ苗木需要急増に対応するため増産技術開発に取り組んでいます】(2018.6.26発信) 森林資源の充実により主伐が増加し造林に必要な苗木需要が急増しています。スギ推奨品種さし木苗を増産するため樹苗生産農業協同組合と共同で未活用だったミニ種の活用試験に取り組んでいます。(写真:苗木床替)		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.7.27
0123	林業研究部	【寸法安定性の高い高品質乾燥技術を開発しています】(2018.5.31発信) 地域材を使った公共木造建築やパネル工法住宅の建設ニーズの高まりに対応し、寸法安定性の高い無垢乾燥材の生産技術を開発するために大断面の製材品を使った乾燥試験を行っています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.6.29
0116	林業研究部	【スギ推奨品種さし木苗の増産に取り組んでいます】(2018.5.21発信) 造林のための苗木需要が急増し、必要なさし木苗が不足しています。当研究部では、さし木苗を生産するための採種台木から多くの苗木を生産することを目標に品種特性にあった採種台木の仕立て方を開発しています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2018.6.21

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0101	林業研究部	<p>【おおいた早生樹研究会と共に早生樹活用を推進しています】(2018.4.20発信)</p> <p>主伐後の次世代の森林づくりの候補の一つである早生樹の活用を推進するため、おおいた早生樹研究会と共に、成長量調査や木材の用途を検証してパンフレットにまとめました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973- 23-2146	2018.5.20

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑦きのこグループ (計16件)						
0303	きのこグループ	【散水管理試験実施中】 (2019. 3. 13発信) きのこグループでは、シイタケの単収向上技術を確立するための研究を実施しています。現在春子の最盛期に入っていますが、芽切りの少ないほだ木に対する散水の効果を調査しています。		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2019.4.2
0282	きのこグループ	【シイタケの最盛期が近づきました！】 (2019. 2. 13発信) シイタケの単収向上技術の確立のための研究をしています（秋や冬に実施した打木やほだ倒し等の処理がシイタケの発生に及ぼす効果の調査）。今季は暖冬傾向のため、春子の最盛期が早まることが予測されています。		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2019.3.13
0271	きのこグループ	【低温性品種の単収向上技術試験を実施中】 (2019. 1. 16発信) 春期の発生割合が高い低温性品種の単収向上技術の確立を目指す研究を実施しています。今年度は林内及び人工ほだ場で、ほだ倒しと散水を組み合わせた方法が単収向上に及ぼす効果を明確にする試験を実施中です。		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2019.2.15
0249	きのこグループ	【きのこグループ設立30周年記念研究発表会を開催します】 (2018. 12. 5発信) きのこグループは、設立30年を迎えたことを記念し、12/13に当グループで研究発表会を開催します。これまでの研究成果や生産者等の体験発表も予定していますのでご参加下さい。（※次第：当グループHP掲載） http://www.pref.oita.jp/soshiki/15089/		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2019.1.11
0242	きのこグループ	【1年起こしほだ木に対する打木刺激】 (2018. 11. 20発信) 伏せ込み中の高温障害を軽減するため、ほだ木の1年起こし試験を始めました。今年度はほだ木に対する効果的な刺激を明らかにするため、11月上旬に散水と打木処理を実施し、シイタケの発生量を調査しています。		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.12.20
0232	きのこグループ	【九州森林学会沖縄大会が開催されました】 (2018. 11. 2発信) 10/27琉球大学において、九州森林研究大会が開催され、当グループからは「紫外線照射による乾シイタケ中のエルゴチオネインの増加」「アラゲキクラゲ菌床栽培の実証試験について」の演題で研究発表を行いました。		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.11.29
0224	きのこグループ	【シイタケ省エネ乾燥技術の普及】 (2018. 10. 23発信) 当グループでは、シイタケ乾燥工程のダンパー制御等の見直しを行い、コスト削減が可能な乾燥技術の普及を図っています。最近では灯油価格の高騰のため、秋子の本格的採取前に積極的な実施の検討をお願いします。		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.11.21
0215	きのこグループ	【アラゲキクラゲ現地調査を実施中】 (2018. 10. 15発信) 当グループでは、クヌギチップを用いたアラゲキクラゲ菌床栽培の現地実証試験を行っています。現在、今年の発生状況の調査結果を取りまとめ中です。昨年度の結果と合わせて、10/27の九州森林学会で発表予定です。		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.11.12
0203	きのこグループ	【ヒポクレア属菌の発生に注意！！】 (2018. 9. 21発信) 8月以降、県内で伏せ込み中のシイタケほだ木にヒポクレア属菌の害菌発生が確認されています。ヒポクレアペルタータとヒポクレアラクテアは感染力が強いため、早期発見と対応（発生ほだ木の隔離や通風改善等）が重要です。害菌の判別が難しい場合は、当グループや関係機関に連絡して下さい。		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.10.19
0177	きのこグループ	【シイタケ原木用多孔穴孔機の改良】 (2018. 8. 21発信) 当グループでは原木シイタケ栽培の省力化を図るため、民間と連携して機械化を推進しています。今回、製造販売休止中の多孔穴孔機を改良したモデルが試作されました。8/28以降に当グループで実演を行う予定です。		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.9.20

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0172	きのこグループ	<p>【LEDを活用した菌床シイタケ栽培技術の開発】 (2018. 8. 6発信)</p> <p>当グループでは、シイタケ菌床の培養期間の短縮を図るため、LEDを用いた試験を今年度から開始しました。今年度は、LEDを照射した菌床から発生するシイタケについて、発生量や品質を対照区と比較調査しています。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.8.31
0139	きのこグループ	<p>【菌床シイタケの省エネ管理実証調査】 (2018. 6. 26発信)</p> <p>夏期電気代を節約する温度管理に関する研究に取り組んでいます。今年度は県内数箇所にて現地実証調査を行います。研究結果の説明後、現在の発生管理方法を生産者から聞き取り、省エネ管理法の提案を行います。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.7.27
0135	きのこグループ	<p>【乾シイタケ判定会議の開催】 (2018. 6. 11発信)</p> <p>本県の気象条件に適合するオリジナル品種の育成を目指した研究を実施しています。6/8の判定会議では、秋から春に発生したシイタケの形状、大きさ、発生時期及び量を確認し、来春に接種する系統を判定しました。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.6.20
0124	きのこグループ	<p>【ハラアコブカミキリの産卵痕調査実施中】 (2018. 5. 31発信)</p> <p>きのこグループでは、シイタケほだ木の害虫「ハラアコブカミキリ」の防除に関する研究を実施しています。ほだ木毎に産卵した痕跡（産卵痕）を数え、夏以降に脱出した成虫の数を調査する予定です。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.6.15
0119	きのこグループ	<p>【菌床アラゲキクラゲの実証試験調査実施中】 (2018. 5. 25発信)</p> <p>きのこグループでは、アラゲキクラゲの菌床栽培に関する研究を実施しています。現地で大規模実証試験に取り組む生産者の発生状況、散水等の管理方法、経営調査を行います。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.6.22
0115	きのこグループ	<p>【ハラアコブカミキリの生態調査実施中】 (2018. 5. 21発信)</p> <p>きのこグループでは、シイタケ原木栽培の害虫「ハラアコブカミキリ」に関する研究を実施しています。今年度は、効果的な防除法を開発することを目的に、成虫に印を付けて、生態を調査しています。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974- 22-4236	2018.6.15

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結 (合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑧水産研究部 (計31件)						
0306	水産研究部	【ブリ人工種苗と天然種苗を比較しました③】 (2019. 3. 20発信) 現地養殖試験の最後の測定を行いました。人工は平均全長48.9cm、平均体重1374.7gで、天然は47.3cm、平均体重1266.7gでした。2~3月の成長は停滞したものの無事に試験を終りました。今後の出荷が楽しみです。		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2019.4.19
0308	水産研究部	【早期ブリの大小選別を行いました！】 (2019. 3. 20発信) 早期採卵し飼育を行っているブリ仔魚を大小サイズ別に分けました。実施日の平均全長は1.8cmでしたが、日々成長しています。4月上旬に試験協力者の募集を行いますので、ご興味のある方はよろしくお願います。		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2019.4.11
0301	水産研究部	【ワカメの加工指導を行いました】 (2019. 3. 11発信) 漁業者からワカメの加工方法について指導の要望があり、普及指導員とともに加工方法や保存方法等について説明しました。このように、水産研究部では漁業者からの要望を受けて加工技術の指導も行っています。		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2019.4.5
0300	水産研究部	【寸劇で園児にかぼすブリ・かぼすヒラメを紹介】 (2019. 3. 11発信) 県栄養士会主催の食育活動に協力し、県下5ヶ所の幼稚園等で寸劇による県産魚の紹介をしました。浦島太郎の隣人「浦島しんちゃん」が、魚の運動会を見て玉手箱を貰う話です。前のめりの園児達、食いつきは抜群です。		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2019.4.10
0299	水産研究部	【赤潮勉強会で漁業者へ研究成果を紹介】 (2019. 3. 7発信) 漁協上入津支店で開催された赤潮勉強会で、赤潮発生状況等を説明し、酸素供給による被害軽減の研究成果を紹介しました。まだ課題はありますが、現場での実用化により赤潮被害軽減に繋がることを期待しています。		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2019.4.5
0286	水産研究部	【ブリ抗病性試験に向けた標識装着】 (2019. 2. 20発信) 飼料組成がブリの抗病性に及ぼす影響を調べるための水槽実験に向けて、色素(イラストマー)標識をブリに装着しました。ブリの眼の後側に色素を注入して3つの試験区を区別し、同じ条件の下で抗病性を比較します。		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2019.3.15
0281	水産研究部	【今年も早期ブリ種苗生産を行います！】 (2019. 2. 13発信) 今年もブリの早期採卵に成功し、31.8万粒の受精卵を得ることができました。ふ化した25.3万尾の仔魚を水槽に収容し、4月末の生産者に配布を目指して種苗生産に取り組んでいきます。		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2019.3.15
0274	水産研究部	【タチウオ親魚飼育】 (2019. 1. 23発信) 12月に水産研究部の水槽に搬入したタチウオの飼育日数が1ヶ月を超えました。水族館でも飼育展示が難しいタチウオですが、飼育条件の知見を蓄積することで水槽内で採卵可能な状態に成熟させる可能性を探ります。		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2019.2.28
0267	水産研究部	【ブリ人工種苗と天然種苗を比較しました②】 (2019. 1. 9発信) 現地養殖試験でのブリ人工種苗と天然種苗を比較しました。人工は平均全長47.9cm、平均体重1331.3gで、天然は平均全長47.4cm、平均体重1262.9gでした。順調な成長で天然に負けていないことが確認できました。 ※関連タイムリー情報はNo. 0148		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2019.1.31
0254	水産研究部	【赤潮のないきれいな海へ～佐伯豊南高校との連携開始～】 (2018. 12. 17発信) 赤潮対策として、海水中の栄養塩を取り込んだ海藻(アオサ)の堆肥化を佐伯豊南高校と協同し進める予定です。12/13に「水産業と農業の関係」について講演すると生徒から多くの質問があり今後に期待が持てました。		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2019.1.18

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0253	水産研究部	<p>【アワビ放流効果調査】 (2018. 12. 13発信)</p> <p>蒲江の西野浦で、佐伯市と南部振興局と協力し、潜水で漁獲したアワビの重量・殻長の測定と、殻をワイヤーブラシで磨き殻頂部の色を調べました。色が緑であれば放流員なので、その割合から放流効果を推定します。</p>		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2019.1.18
0240	水産研究部	<p>【姫島の潜水漁業者がアワビ放流の研修で来所】 (2018. 11. 15発信)</p> <p>姫島の潜水漁業者5名が11/9に当部を訪れ、放流員と天然貝の判別方法、放流効果の把握方法、他地区での資源管理の取り組み等アワビ放流について学び、その後、漁業公社で種苗生産の現場も視察しました。</p>		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2018.11.29
0239	水産研究部	<p>【タチウオ稚魚調査】 (2018. 11. 13発信)</p> <p>シラス（カタクチイワシの稚魚）を漁獲する船曳網に混じるタチウオ稚魚を定期的に調査しています。サンプルを一部持ち帰り、全長、体重等の経時変化を調べて発生状況の検討材料として活用します。</p>		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2018.11.29
0235	水産研究部	<p>【ブリ早期採卵に向けた準備を開始！】 (2018. 11. 7発信)</p> <p>早期採卵するブリ親魚の測定等を行い、採卵に向けた準備を始めました。体長・体重の測定、個体識別用タグの装着、雌雄判別を行いました。雌も数個体確認できたので、来年2月頃には早期採卵ができる見込みです。</p>		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2018.12.6
0222	水産研究部	<p>【子ども達に好評！ 水産研究部展示ブース】 (2018. 10. 22発信)</p> <p>水産研究部が第37回水産振興祭に展示した「水産生物にふれあうタッチプール」「選別前のチリメンから変わった生き物を探そうちりもんGO!」が子どもたちに大好評でした。担当者は子ども達の質問攻めに遇いました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2018.11.20
0217	水産研究部	<p>【かばすブリ品質検査】 (2018. 10. 16発信)</p> <p>かばすブリの出荷前に、血合の褐変時間等の品質検査を行いました。かばす給餌と通常給餌のブリの食味検査では、いつも味の違いがわからない菜主幹研究員でも味の違いがわかる「かばすブリ」が仕上がりました。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2018.11.9
0213	水産研究部	<p>【ハダムシワクチンの結果検査】 (2018. 10. 4発信)</p> <p>先月ブリとカンパチに接種したハダムシ症DNAワクチンの効果検証のため、魚から採血し、寄生したハダムシ類の採集を行いました。血液中の抗体を測定し、ハダムシ類の数を比較して、ワクチンの効果を検討します。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2018.11.2
0200	水産研究部	<p>【東雲中学校3年生の職場体験受け入れ】 (2018. 9. 18発信)</p> <p>地元の東雲(しのめ)中学校3年生1名が、9/13~14に水産研究部でブリの沖出しや菌分離作業等を体験しました。当研究部がどんな仕事を行っているのかわかり、水産関係の仕事にも興味を持ってもらえたようです。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2018.10.19
0195	水産研究部	<p>【ハダムシワクチンの試験を開始】 (2018. 9. 13発信)</p> <p>養殖業者泣かせの寄生虫、「ハダムシ」類の対策に関するワクチン試験を開始しました。東京海洋大学と共同で、ブリ、ヒラマサ、カンパチについて効果を検証します。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2018.10.12
0185	水産研究部	<p>【クラゲ調査を行いました！】 (2018. 9. 3発信)</p> <p>調査船「豊洋」では海洋観測調査の他、クラゲ調査を行っています(主に胃内容物の調査、ミズクラゲやアカクラゲの定量調査)。調査には水族館「うみたまご」の職員も乗船します。珍しいクラゲが水族館で見られるかも？</p>		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2156	2018.9.25

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)




整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0184	水産研究部	【イルカの群れに遭遇しました！】 (2018. 9. 3発信) 海洋観測調査時にイルカの群れに遭遇し、1m前後の個体から3mに迫ろうかという大きな個体も見られました。いつもはイルカ目視調査のため「つくみイルカ島」の職員が乗船しているのですが、今回は不在で残念！		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2018.9.25
0182	水産研究部	【アオリイカ産卵調査実施しています！】 (2018. 8. 28発信) アオリイカの資源管理や資源増殖の基礎研究のため、津久見湾内において当部が作成した簡易産卵礁を設置し、どのような場所で産卵が行われるか潜水で目視観察を実施し産卵生態に関する知見を収集しています。		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2018.9.21
0161	水産研究部	【ヒラマサ中間育成試験開始！】 (2018. 7. 23発信) ヒラマサ人工種苗の大量生産体制を確立するための中間育成試験を7/18に佐伯市蒲江で開始しました。漁業公社で生産した平均全長72.4mmのヒラマサ種苗を養殖業者への出荷サイズ100mmまで育てる飼育試験です。		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2018.8.10
0148	水産研究部	【ブリ人工種苗と天然種苗を比較しました】 (2018. 7. 9発信) 5/2から現地養殖試験を行っているブリ人工種苗と天然モジャコを比較しました。人工は平均全長23.7cm、平均体重144.8gで、天然は平均全長20.2cm、平均体重90.2gでした。生産者からの評価も高く、今後に期待が持てます。		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2018.7.31
0147	水産研究部	【赤潮防除技術開発（高濃度酸素供給による被害軽減実験）】(2018. 7. 9発信) たびたび発生する赤潮被害を軽減する技術を開発するため、陸上養殖のヒラメ等に高濃度の酸素を供給し延命させる実験を国の研究機関と協力して行いました。		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2018.7.31
0146	水産研究部	【赤潮防除技術開発（新赤潮防除剤効果試験）】 (2018. 7. 9発信) たびたび発生する赤潮被害を軽減するため、新たな赤潮防除剤の効果。国の研究機関等と協力して試験を実施しました。今後、新たな防除技術となるよう試験を継続中です。		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2018.7.31
0144	水産研究部	【クルマエビの稚エビ調査を実施しました】 (2018. 6. 29発信) 番匠川河口にて、(国研)水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所と共にクルマエビ資源回復の糸口をつかむための基礎調査を行いました(写真:調査器具のエビカキによる稚エビ採捕状況)。10月まで毎月調査予定です。		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2018.7.13
0138	水産研究部	【クルマエビ囲網 ドローン空撮】 (2018. 6. 25発信) 番匠川河口に設置されたクルマエビ種苗の馴致放流のための囲網をドローンで空撮しました。ドローンの導入で上空からの撮影が可能となり、今後は藻場や赤潮の状況把握にもドローンを活用する予定です。		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2018.7.10
0109	水産研究部	【「第三のカボス魚」かぼすヒラマサがデビュー！】 (2018. 5. 8発信) カボスを餌に添加した養殖試験を開始しました。味、香り、見た目のよさを科学的に検証し、かぼすブリ・ヒラメに続く「かぼす三兄弟」としてブランド化を目指します。		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2018.5.31
0107	水産研究部	【早期人工種苗ブリ 現地養殖試験へ！】 (2018. 4. 26発信) 当部生産種苗を5月2日に津久見市四浦のブリ養殖生産者に出荷します。輸出用ブリとして成長・生残の追跡調査を行い、持続可能な(サステナブルな)養殖に貢献できる研究を行っていきます。		水産研究部 栽培資源チーム	0972-32-2155	2018.5.11

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0100	水産研究部	<p>【ブリ人工種苗 試験協力者募集中】 (2018. 4. 16発信)</p> <p>早期種苗生産したブリ稚魚（日齢65、8,000尾、サイズ92.6mm、体重7.7g）の生残・成長試験の協力者を4/19まで募集しています。種苗出荷計画は、4月末～5月上旬です。興味のある方のお問い合わせをお待ちしています。</p>		水産研究部 栽培資源チーム	0972- 32-2155	2018.5.7

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑨浅海・内水面グループ (計22件)						
0298	浅海・内水面グループ	【アユの遡上が始まりました！】 (2019. 3. 5発信) アユ資源の適切な管理や利用を検討する目的で、3月1日に番匠川、大野川および大分川に遡上するアユの採捕調査を実施したところ、アユの遡上を確認しました。	 大野川採捕の遡上アユ	浅海・内水面グループ 内水面チーム	0978-44-0329	2019.3.29
0284	浅海・内水面グループ	【タイラギ養殖試験～順調に生育中！～】 (2019. 2. 14発信) 姫島でタイラギ養殖の現地実証試験を行っています。潜水により小型貝を海底に1個ずつ丁寧に移植し、その上に食害や逸散防止のためのネットを被せます。現在、生育はととも良好です。	 海底移植	浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2019.3.29
0295	浅海・内水面グループ	【陸封アユの採捕調査を実施中！】 (2019. 2. 22発信) 日田漁協・日田市内水面活用推進協議会と協同で松原ダム湖に生息する陸封アユの有効利用を図る目的で、これまでに約50千尾を採捕し放流用種苗として育成しています。	 網集する陸封アユ	浅海・内水面グループ 内水面チーム 又は 日田市 農業振興課 内水面・畜産振興係	0978-44-0329 0973-22-8211	2019.3.20
0258	浅海・内水面グループ	【マコガレイ産卵場調査を実施中！】 (2018. 12. 25発信) マコガレイ資源の増大を目的に、親魚の産卵に適した生息環境条件を把握するため、産卵盛期を向かえる12月下旬から、別府湾と豊前海で調査を実施しています。	 マコガレイ産卵場調査	浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2019.1.31
0256	浅海・内水面グループ	【豊前海で新海苔の販売開始！】 (2018. 12. 20発信) 豊前海で養殖ノリの摘採が本格化し、新海苔の販売が始まりました。今期は天候にも恵まれ順調に育ち、美味しい海苔に仕上がっています。	 豊前海で新海苔の販売開始	浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2019.1.31
0250	浅海・内水面グループ	【高級魚キジハタ種苗の標識放流】 (2018. 12. 5発信) 漁業公社で中間育成しているキジハタ種苗1万尾（全長約10cm）の耳石に特殊な標識を付け、12/7姫島に放流し、成長や移動等について調査します。	 高級魚キジハタ種苗の標識放流	浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.12.28
0225	浅海・内水面グループ	【豊前海でノリ養殖種付け開始！】 (2018. 10. 25発信) 10月中旬から中津と宇佐地区でノリ養殖の種付けが始まりました。当チームでは、良いノリが生産できるように環境情報の提供や病害発生等についての指導を行っています。	 豊前海でノリ養殖種付け開始	浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.12.28
0220	浅海・内水面グループ	【放流用オニオコゼ種苗の標識付け作業を実施中！】 (2018. 10. 18発信) 漁業公社で中間育成しているオニオコゼ種苗2万尾に、背鰭の5、6番目の棘を抜く、手間暇のかかる標識付け作業を行っています。標識付けしたオコゼ種苗は姫島で放流します。	 放流用オニオコゼ種苗の標識付け作業	浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.11.29
0209	浅海・内水面グループ	【タイラギ種苗生産～稚貝着底に成功！】 (2018. 9. 28発信) タイラギ養殖の実用化を目指し、人工種苗の生産技術開発に取り組んでおり、初めて約2百個の着底稚貝の生産に成功しました。生産技術の確立に向けた大きな一歩です。	 タイラギ着底稚貝	浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.10.30
0206	浅海・内水面グループ	【DNA標識を用いたナマコ放流効果調査】 (2018. 9. 25発信) 5～6月にナマコの受精卵とふ化幼生を大量放流した豊後高田市香々地の新波止漁港内において、9月下旬から追跡調査を開始し、放流効果を検証します。	 DNA標識を用いたナマコ放流効果調査	浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.10.30

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)





整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0205	浅海・内水面グループ	<p>【豊前海アサリの資源動向モニタリングを実施します】 (2018. 9. 25発信)</p> <p>秋季の豊前海アサリ資源の現存量を把握するため、10月の大潮干潮時に中津市～豊後高田市10地区の干潟において資源量調査を行い、回復策の検討資料とします。</p>		浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.10.30
0196	浅海・内水面グループ	<p>【「かぼすヤマメ」の食味試験をします】 (2018. 9. 14発信)</p> <p>9月23日(福岡市)、9月26日(日田市役所)、県特産カボスを餌に混ぜ育てた「かぼすヤマメ」と通常飼料で育てた「ヤマメ」について、一般市民を対象に食味試験をします。</p>		浅海・内水面グループ 内水面チーム 又は 日田市 農業振興課 内水面・畜産振興係	0978-44-0329 0973-22-8211	2018.9.26
0189	浅海・内水面グループ	<p>【漁船操業中の海洋データを収集！】 (2018. 9. 7発信)</p> <p>カレイ類やクルマエビ等の詳細な生息場所や海底の水環境を明らかにするため、小型底曳き網漁船の網部に観測機器を取り付けて、操業中の水温等データの測定を始めました。</p>		浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.10.30
0165	浅海・内水面グループ	<p>【貝類の外敵ナルトビエイの標識放流を実施します】 (2018. 7. 30発信)</p> <p>本県アサリ資源の減少原因の一つであるナルトビエイの効果的な駆除方法の確立に向け、8月に豊前海において標識放流を行い、季節的な移動経路や生息場所を解明していきます。</p>		浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.8.31
0150	浅海・内水面グループ	<p>【マガキの天然採苗試験開始！】 (2018. 7. 10発信)</p> <p>マガキの産卵シーズンに入りました。県下でカキ養殖が行われている中津市、豊後高田市、杵築市の3地区で、今年度から新たな採苗技術を活用した天然採苗試験を行っています。</p>		浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.9.28
0136	浅海・内水面グループ	<p>【アサリの人工種苗生産開始！】 (2018. 6. 18発信)</p> <p>アサリの産卵期は春と秋の年2回あり、春シーズンの種苗生産を始めました。殻長3mm以上の稚貝にまで育成し、増養殖試験用として利用します。</p>		浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.7.18
0122	浅海・内水面グループ	<p>【高級二枚貝タイラギの種苗生産開始！】 (2018. 5. 29発信)</p> <p>6月からタイラギの種苗生産を開始します。現在は未利用の天然小型貝を用いた養殖試験を行っていますが、不安定な天然に頼らない人工種苗の生産技術の確立を目指しています。(写真は殻長199µmのタイラギ幼生)</p>	<p>タイラギ幼生</p>	浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.8.31
0121	浅海・内水面グループ	<p>【豊前海アサリの資源動向モニタリングを実施します】 (2018. 5. 25発信)</p> <p>回復が望まれる豊前海のアサリ資源について、今季の現存量を把握するため、6月の大潮干潮時に中津市～豊後高田市の10地区の干潟において資源量調査を行います。</p>		浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.6.29
0120	浅海・内水面グループ	<p>【ヒジキの種苗生産が始まりました！】 (2018. 5. 25発信)</p> <p>ヒジキの種を養殖用ロープに直接附着させ、発芽した新芽を秋口まで育苗し、人工種苗ロープを生産します。このロープを用いた養殖試験も行うことにしています。</p>		浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.9.28
0098	浅海・内水面グループ	<p>【ナマコ種苗生産シーズン到来！】 (2018. 4. 13発信)</p> <p>アオナマコとクロナマコの種苗生産を開始しました。5月には生産中のナマコ幼生を漁港内で放流し、DNA標識による追跡調査を行い、放流効果を求めることにしています。</p>		浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978-22-2405	2018.6.29

農林水産研究タイムリー情報

2019年4月24日完結

(合計217件)



整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0095	浅海・内水面グループ	<p>【マコガレイ稚魚分布調査を実施中！】 (2018. 4. 10発信)</p> <p>マコガレイ資源の増大を目的に、減耗の激しい稚魚期の適した生息環境条件を把握するため、別府湾から豊前海にかけて調査を実施しています。</p>		浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978- 22-2405	2018.6.29
0094	浅海・内水面グループ	<p>【タイラギ養殖の実証試験開始！】 (2018. 4. 5発信)</p> <p>底びき網で混獲された商品サイズに達しない天然のタイラギ小型貝を姫島地先の海底に移植して、出荷サイズまで潜水して管理する養殖試験を開始しました。</p>		浅海・内水面グループ 浅海チーム	0978- 22-2405	2018.5.31